

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

大盛況でした！ 令和6年度 幼保小教育連携研修会(分科会)

「探究心を発揮する子ども」へ～子どもの姿と大人の援助を語り合おう～

7月25日(木) PM

「健康部会」★「人間関係部会」

7月26日(金) AM

「環境部会」★「言葉部会」

7月26日(金) PM

「表現部会」★「特別支援部会」



今年も各分科会で、幼稚園、保育園、そして小学校からのすてきな実践提案を通して学ぶことのできる時間となりました。

例年、園からの申し込みは多く、早くから定員に達し申し込み終了となるのですが、学校からの申し込みは今一つでした。

それが今年のビッグニュースは、「学校からの参加申し込みが激増して、部会によっては定員オーバーとなった！」ことです。

<参考> 幼保職員数 : 学校職員数

R元年度 762名 : 20名 →2.5%

R6年度 472名 : 156名 →25%

※コロナ禍以降、全体の定員は減っています。

でも学校職員は**40人に1人から、4人に1人へ!**

それだけ、学校の先生方の幼保小連携への関心が高まり、園の取組を知りたい、そこから学びたい、という意識が強くなってきたと思われとてもうれしいことです。

おかげで、グループ協議では全グループに学校職員が入った編成が可能となり、「ここでの話がとてもよかった！」という声が多く聞かれました。

環境部会より

身近な自然と触れ合う散策を繰り返す中で、自然との関わりを楽しむ心が育ちました。



特別支援部会より

ICTを活用して友達と学び合い、マットで後転ができるようになりました。



言葉部会より

リレーの走る順番を考えました。みんなが納得できるまで話し合う姿に、子どもの成長を感じました。



感想より: 小学校の事例では、支援が必要な子であってもその子の力を信じ、子ども自身がやりたいと思うことに挑戦させ、先生の力ではなく自分自身や、まわりの友達と力を合わせて学んでいく姿が印象的でした。

感想より: 園の実践では、子どもたちの発達段階に合わせて、教材をタイミング良く配置していくこと、取り入れた動きを考えつつ子どもの興味に合わせていく大切さを感じました。



感想より: 誰かの疑問や分からないことを皆で共有し、子ども同士で考えたり、教え合ったりできるような話し合いの場を作っていきたいと思いました。